

4 パンの製造・販売という品目の性質上、従来から早朝作業の繁忙が一つの課題でしたが、早朝繁忙の改善と販路の拡張を見据えてのオープン増設とホイロの更改を行いました。オープン増設による焼き場の拡張に伴い、店舗、焼き場、商品点検室、出荷準備コーナー、食堂・休憩・静養室等の部屋割りと改造計画について、4月下旬から工務店と打ち合わせを行い、5月27日着工7月10日竣工の予定で工事を進めました。店舗はワゴン販売に集約。焼き場を店舗スペースに移設し、旧焼き場の壁を無くして食堂・休憩室を広げ、商品点検・出荷準備室と兼用としました。その結果、焼き作業が外から見えるようになったこと。食堂が広がったこと等、好結果をもたらすこととなりました。また、年明け早々に冷凍冷蔵庫が故障してしまいました。平成12年4月に購入した備品で、かねてより点検保守の業者から更改時期だと言われていた物でした。必要上、直ちに新しい冷凍冷蔵庫をリース契約し更改しました。更に、作業の清潔をいっそう徹底するために作業ごとの手洗いの徹底とタオルでの手拭きを止め、「手洗い乾燥機」を設置しました。

5 売上げは増収でしたが、支出も増加しており、収支は、284,111円の赤字でした。積立金を取り崩すこととなります。平成19年に新制度移行後、ずっとほぼ毎年積立金を取り崩して利用者が8名から10名。10名から12名と増え続けても、工賃の維持向上を図ってきました。実は、もっと以前、平成14年の法人発足当時、8名の利用者と工賃は7000円でしたが、その年に北九州市社協と提携して生み出した新商品「おからクッキー」の発売により、多額の余剰金を積み立てることが出来ました。当時の行政の担当者は、「その年度の収益はその年度の利用者に還元するべき」との見解でしたが、人数が増えても安定した額の工賃が続けられるように、この積立金を活用して5ヶ年計画で25,000円の工賃を目標として進めると共に、併せて、自分で稼いだお金を自分で使うこと。「お金を使う運動」を提唱したのでした。積立金は想定どおり少なくなっていきました。そして平成24年度に初めて2000円ダウンの見直しを行い、平成25年度で積立金は終了することになりました。したがって、平成26年度からは基本的に、その年度の売上額が直接工賃額に影響することになります。

平成25年度の支出が増えた要因は、オープンを増設したことにより電気料金の基本料がランクアップしたことに合わせて電気料金そのものの値上げが行われていること。沢山作れば原材料等経費も増えること。中でも、一括して購入する「包装資材」を本年度は一定量購入したこと等が要因として推測されるところです。

一方、下請加工を仕事としている虹工房は、下請け作業そのものが減少傾向にあり、「換気扇の袋詰め作業」も「菓子箱折作業」も年を追うごとに減少しています。6月に小規模連の斡旋による「ボルト作業」を新たに受けましたが、発注側の都合で3回のみ作業で終了となりました。年々、~~事業縮小は避けられないこと~~の第3は、利用者が、両事業所とも1名減ったことです。

現在、全体で19名(太陽パン11名。虹工房8名)が利用者数の現状です。

太陽パンの1名減は、2月の最初の出勤日である3日に「しばらく休む」という連絡がありました。職員の認識は、1月中旬から下旬かけて、通勤途上での利用者間での関係の拗れがあったようで、乗車するバス停を変更していることについての問いかけも不満であるようだ。作業中の些細な注意に対しても不満があった様子で、保護者と連絡を取り話合いを持つことにしていましたが、その場が作れずにいました。その後、2月25日の給料日に、保護者が受け取りに来て「本人が行きたくないと言っているので、辞めさせる。」ということでした。実は、岡崎拓が昨年末から体調に異常をきたし、家族付きっきりの看護という状態の時期でした。結果は、「心不全」と診断され3月1日から24時間付きっきりの入院となりました。頭も気持ちも全く余裕の無い状態でした。こうした状況は、利用者の中にも作業過程でも気持ちの不安や混乱を生んでいたことでしょう。職員もバタバタしていて、話をゆっくり聞いてやる事が出来ていないという状況になっていました。新体制移行を直後に控えての引継ぎの不徹底や職員間の任務分担や意思確認の不徹底もあったでしょう。事前にも事後にも対応が極めて不十分であったことは否めません。このことを重大なこととして受け止めると共に、これを機に、日常的な共同作業を通して、一人ひとりの思いや気持ちを感じ取る視点。職員どうしで情報を共有し関係改善、相互の気持ちの交流、太陽パンとしての結束を前に進める認識の統一。そして、本人の気持ち、太陽パンとしての気持ちを保護者に伝え、保護者との一体感を築くこと。障害者福祉サービス事業の質的深化を考え合う作風を作り上げようと職員一致して確認しあったところでした。

虹工房の1名減は、9月4日に清川さんが緊急入院することとなり、その日から、清川美香さんが「ひまわりの里」に緊急一時入所となりました。ところが、当初想定していたよりも入院療養が長引くことがわかり、12月10日、家族、親族での話合いの結果、この際、正式に「入所を希望する」こととなりました。幸い偶然にも1名の空きが生じ、1月8日付で「ひまわりの里」への入所が決ま

7 利用者の2名減になりますから給付金収入は2名分少なくなります。定員20名のポイント(585P→589Pへ改訂)の減算は生じません。また、地域区分は、26年度から10,21へ見直し。現在、給付加算は、重度障害者支援体制加算Ⅱ。(28P)。目標工賃達成加算Ⅱ。(22P)。処遇改善加算2.1%の3つの加算が給付されています。

事業所ごとの報告

<太陽パン>

- 1 ワゴン販売の着実な実践。定着。年間225日実施。840,270円売上げ。
- 2 夏休みパン作り教室の実施。7月～8月に7回開催。77人参加。
- 3 作業の清潔さの徹底と防カビ対策の強化。作業ごとの手洗いの徹底とタオルでの手拭き禁止。

手洗い乾燥機の設置

- 4 通勤途上のトラブルと通勤支援の課題。保護者との共同支援の構築追及。職員勉強会の実施。
- 5 地域への融和と「三丁目公園」の清掃ボランティア活動の取組初年度。
- 6 かめのごクリスマス会への共催としての参加。
- 7 杉の実保育園とのクッキーづくり。

<虹工房>

- 1 4月、北九州市の福祉バスを利用した別府1泊研修旅行。
クッションが悪く腰の痛みを訴える利用者が多いためあまり遠くへは行けなかった。砂風呂や地獄蒸しも体験し皆満足気であった。6月には、乗物学習を計画し、公共の交通機関を使って下関市の唐戸市場まで行った。モノレール→JR→トロッコ列車→関門トンネル(徒歩)→路線バス→関門渡船→JR→モノレールの工程だった。利用者、保護者、職員のみでの初めての旅だった。高齢者が多く、健康保持と社会参加へのきっかけづくりに重点を置いている。
- 2 7月の定期健康診断では、心電図に異常があり要精密検査の利用者がいた。全員何かしらのチエックが入った。利用者の高齢化に伴い、ますます体力・気力の低下がみられる。
- 3 上田君の西鉄バス利用による通勤が順調に進んでいる。毎朝お母さんがバス停で迎えるが、お母さんがいない時でも一人で降りてくることもある。西鉄バスによる自力通勤が期待できる。
- 4 7月に森さんが兄さんの遺産を受け取り生活保護が切れた。引き続き成人後見人は利用。自
立支援

以上